

人の忠告

他人に忠告する人は多い。しかしその忠告に従ってよくなつたかどうかを検証する人は少ない。自分の忠告を聞いた人が、10年後、20年後によくなつたかどうかになると、検証する人はほとんどいない。自分のことでさえ、10年先、20年先のことを考えて行動する人は少ない。他人に10年先、20年先のことまで考えて忠告するはずがないのである。忠告のほとんどは目先の利害だけを考えた忠告である。

私の人生を振り返ってみても、あの時にあの人の忠告を聞いていたらひどい目に合つたなあと思うことがある。あの時にあの人の忠告を聞いたがためにひどい目に合つたと思うこともある。その忠告を聞いたためにこちらがひどい目に合つても、忠告した人はまず責任を取らない。そればかりか、お前が悪いんだとこちらを責めて自己正当化することが多い。

人の忠告はよく聞かなければならぬ。自分の判断だけでは間違っていることがあるからである。しかし盲従するのは不可である。その忠告をよく見窮め、それに理があるかどうかを自分が判断しなければならない。その忠告を聞いたがために大きな失敗をしても、忠告した人はまず責任を取らない。すべてはその忠告を採用した自分の責任である。